

AI自動スナイパー機関銃搭載領海警備のAIドローン(断続飛行&漂流)

太陽光発電-蓄電池がフルで断続飛行

AI自動スナイパー機関銃
夜間に数キロ先の標的の被弾状況を見て、精密修正し、必ず標的を打ち抜く。

人が乗っているとき
海上・雪上3m
陸上1m

呉市で製造した場合、中国山地と四国山地に安全飛行ルートを設定し、また日当たりのよい複数の待機場を設定すれば、日本海側&太平洋側に移動し、人員及び食料等を積んで、領海警備に移行できる

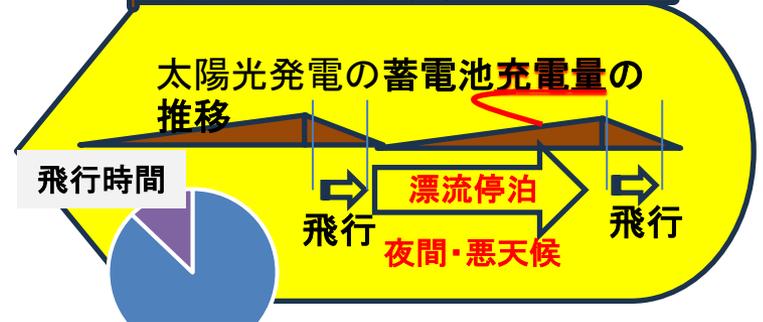
再エネ

太陽光パネル(可能なところ全て)

漂流(充電)&断続飛行移動で、途中で補給をしながら、一年をかけて日本を一周するような警備を行う。

- 第一蓄電池電源系統プロペラ群
どちらかが故障しても、飛行を継続できる。
- 第二蓄電池電源系統プロペラ群

発電・充電・飛行サイクル



漂流停泊時間(充電が十分になるまで飛行しない)

モーター&プロペラ

AI自動スナイパー機関銃
(超望遠ズームレンズ)
(超高感度カラーカメラ)

超精密パンチルト機構P&T: ±15度

大気水&淡水化装置搭載、トイレ、シャワー、污水处理装置、冷暖房&換気、車内外カメラ、ボトムカメラ&ボトムスポット照明、マイアバター搭載

2、4、6、8、...人用

(低速低空自動運転)

海面

海面

ゴム製足x8個

ジュラルミン製

木製(バンパー兼用)

「太陽光発電の蓄電池フルでの断続飛行ドローン」での軍事利用ですが、AI自動運転・「自動スナイパー機関銃」搭載の形で、2050年頃までは、数人の人が乗り、監視活動や威嚇射撃等の各種対応を行うが、それ以降はAIでの全自動（自動運転＋各種対応）を行ったらよいと考えています。

自動スナイパーとは、超望遠ズームレンズ&超高感度カラーカメラを搭載し、また、遠距離射程の超精密なパンチルト（±15度）が可能な機関銃を装備し、ほとんど光のない夜間に、標的の近傍の被弾場所を鮮明に映し出し、AI制御で、微修正を行い、必ず標的に命中させるとても恐ろしい兵器です。

夜間で、肉眼では全く見えない数キロ先から、ヘルメットや防弾チョッキで覆われていても、わずかに露出した、目や股間などを正確に打ち抜くことができるので、自動スナイパーを備えているというだけで、誰も近づかないようになると考えています。（とても強力な戦争抑止力になります。）

たとえば、呉市に製造基地があったとして、日本及び世界の全国の排他的経済水域に、100万機を配備するとして、運搬の必要はなく、AI自動運転で山越えを行い、途中で、人員の搭乗や必要な補給をして、断続飛行を繰り返し、1週間～1月をかけて、所定の海域に着任することができます。

全世界の国々の排他的経済水域に、トータル100万台が常時漂流又は低空飛行する。（海外からも要請があれば対応）

特例を除き1年間の徴兵制度（20代）に近いで日本又はどこかの国をを一周する。除隊すると、500万が支給され、結婚資金となる。（男女併せて1千万）

時々ペアリングを変えながら、週休二日の休日と一緒に過ごす（上陸）ことも可能・・・

呉市より世界中に発進し世界の海を守る。



世界の平和維持部隊へ

基本的には海上を漂い、潮の流れ・強風でGPS上の位置がずれたら、時々飛行し位置修正を行うものですが、同じ海域では、飽きてしまうので、1年かけて日本（又は海外のどこかの国）の海域を一周するようにしたらよいと考えており、また自衛官でなくとも、訓練をすれば、誰でも任につけるので、若者達を中心にした韓国の徴兵制度に近い形で、搭乗員の一般公募をしたらよいと思います。

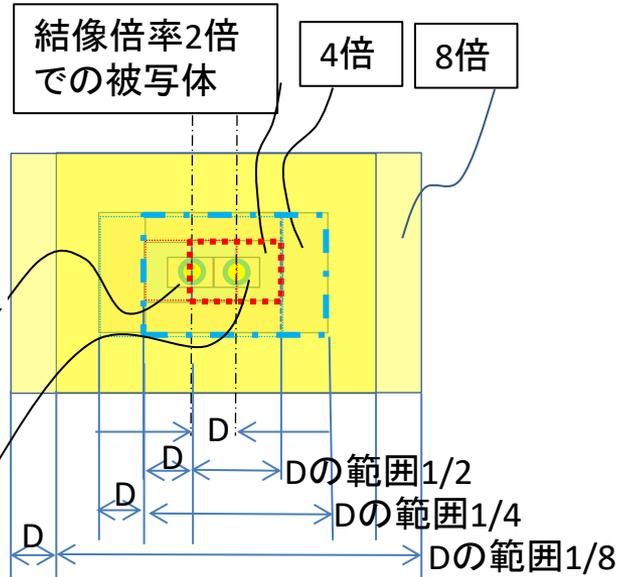
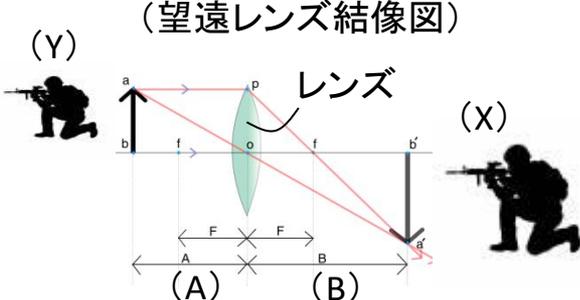
高給ながら、遊ぶ機会はなく、1年間勤務すると結婚資金（5百万程度）が貯まる仕組みにしたらよいと考えています。

<隊員の生活>

筋トレ、資格勉強、食事作り、現地語学勉強、趣味時間、天候報告、温暖化の状況報告、航行船の監視レポート、射撃訓練等・・・

自動スナイパーの考え方

AIが物体の大きさに距離を推定できるが、デュアル(2本)レンズの方が精度が高い。



望遠レンズの結像公式から、被写体の倍率Mは（三角形の相似の公式から） $M=B/A$ で表現されます。（Aは既知で、Bは求めたい距離）

距離測定法(その2)

次に、撮像部のイメージサイズの寸法は既知なので、撮像された (Y =) Z1やZ2の寸法もわかります。また、AI技術によって、Xの本来の大きさの想定が可能で、Xは既知となり、XとYとの比を知り、AとBとの比もわかり、Aはレンズ設計の段階でわかっているので、結局Bがわかり、すなわち距離がわかります。

高感度カラーカメラを搭載し、夜間でも正確な銃撃が可能となり、とても怖い兵器となる。戦争抑止力が大きい。

距離測定法(その1)

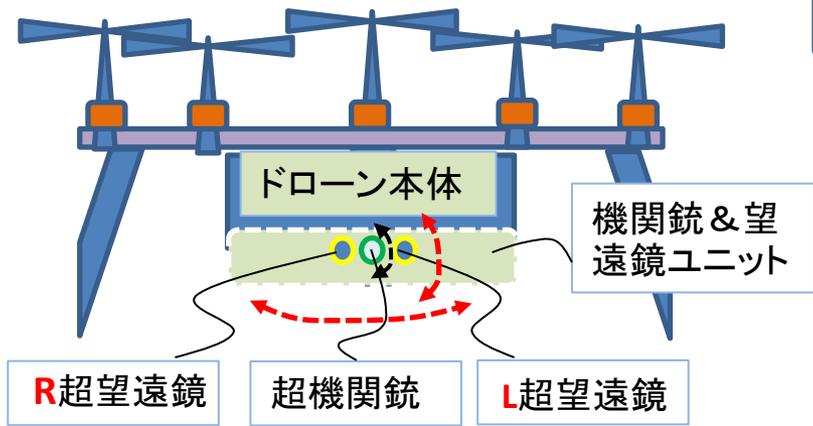
二つの望遠レンズ (&カメラ) のレンズ間距離をDとすると、撮像されるDの大きさ (=片方のカメラに撮像され、もう片方には撮像されない部分) の比率は結像倍率に反比例することから、倍率がわかる。

上図で、Lカメラ撮像範囲2倍の大きさの被写体範囲 (=点線部：結像倍率が2倍という) が撮像される場合のDの範囲は1/2となります。

同様に、Lカメラ撮像範囲4倍の大きさの被写体範囲 (=一点鎖線部：結像倍率が4倍という) が撮像される場合のDの範囲は1/4となります。

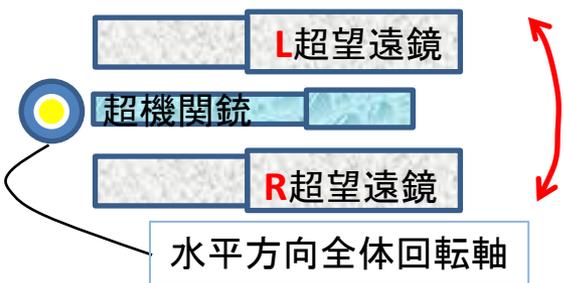
→倍率がわかると、Aは既知なので、Bが導きだされ、すなわち被写体までの距離がわかる。

自動スナイパーシステム



AIが搭載された自律型ドローンに、銃口の向きを細かく精度よく調整が可能な機構を有する超長距離（5km以上）の機関銃と二つの超望遠鏡（＝超長焦点）を二台装備し、標的までの距離や高低差や風雨や気温などを考慮しての射撃を行い、またどこに命中したかを該超望遠鏡で確認し、標的への微調整を行い、再度射撃を行うことで必ず命中させることができる自動スナイパーシステム。

(平面図)

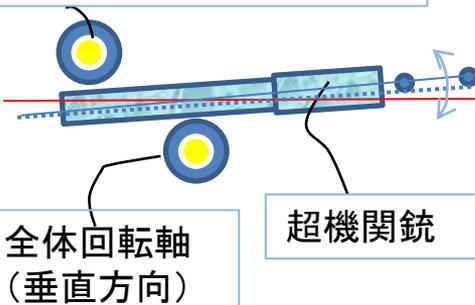


L超望遠鏡からの画像 R超望遠鏡からの画像



レンズ間距離(D)によって生じる撮像範囲のズレ部

上下方向機関銃回転軸



(側面図)

機関銃軸 (遠距離)

機関銃軸 (近距離)

(弾道)



(被写体側)

海洋漂流型の断続飛行の低空空飛ぶ船(家)

例えば1年をかけ世界一周を果たす。

マイアバターが自動運転をし、室内制御を行う

再エネ100%

移動住宅

海上・雪上3m
(陸上1m)

太陽光パネル(可能なところ全て)

国産の太陽光パネルのみ限定で使用する。

- ⊗ 第一蓄電池電源系統プロペラ群
どちらかが故障しても、飛行を継続できる。
- ⊗ 第二蓄電池電源系統プロペラ群

各市町村で、1万人に1台の割合で所有し、各種自然災害時の仮設住宅に充てる。

発電・充電・飛行サイクル

太陽光発電の蓄電池充電量の推移

飛行時間

飛行

漂流停泊
夜間・悪天候

飛行

漂流停泊時間(充電が十分になるまで飛行しない)

民生用途

サブハッチ

メインハッチ

プロペラを部分的に回し揺れ防止を行う

平坦な陸地、草原や湿地帯、海湖上・雪上を断続飛行する「移動住宅」「移動別荘」「復興住宅」「核シェルター」「自然や生体観察」「南極探検やオーロラ観光」等・・・
(↑移動も楽しむ高級な別荘又は自宅：価格3千万～30億)

モーター&プロペラ

仮設住宅

地震・津波・台風にビクともしない、世界一安全な場所であり、遠距離をスローライフを満喫しながら移動する。

大気水&淡水化装置搭載、トイレ、シャワー、汚水処理装置、冷暖房&換気、車内外カメラ、ボトムカメラ&ボトムスポット照明、マイアバター搭載

(低速低空自動運転)

2、4、6、8、・・・人用

海面

海面

ゴム製足 x8個

ジュラルミン製

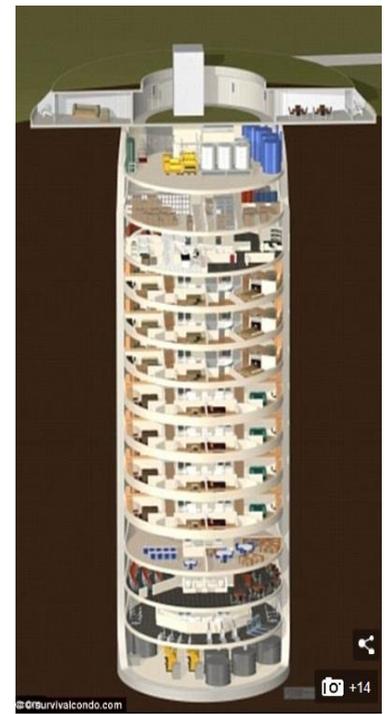
木製(バンパー兼用)

ドローン集団戦略の時代



一人が自由視点映像によって、目標を見やすくし、もう一人がジェスチャーと言葉でドローンに指示を与える。

自由視点映像の時代

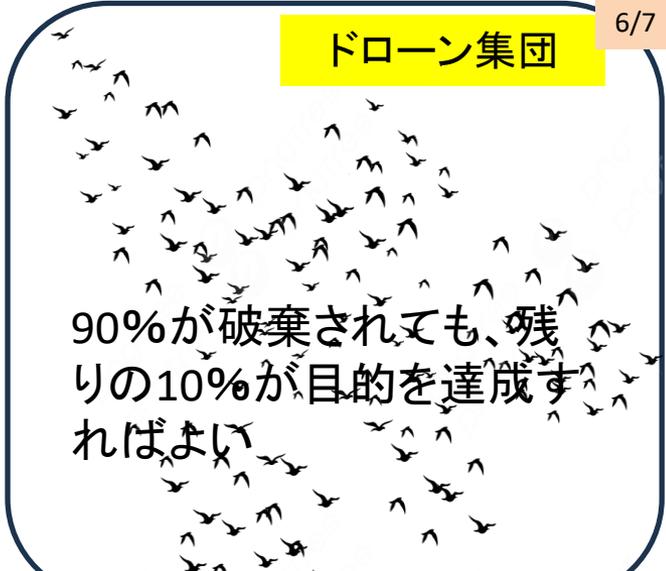


尖閣諸島の核シェルター兼AIドローン&AI無人潜水艦の制御室



自由視点映像とは、複数のドローンからの映像をもとにAIが作る、どの位置どの角度からでも見れて、ズームも可能なシステム。

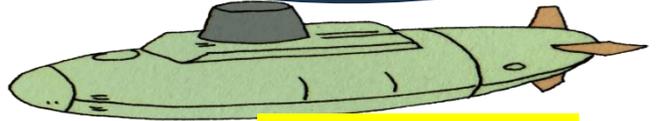
ドローン集団



90%が破棄されても、残りの10%が目的を達成すればよい

自立型ドローン10台一組で、そのうち1台がリーダーとなり、残りの9台は、リーダー機の動きに複雑に追従する。リーダー機が撃墜されたら、自動的に別のドローンがどんどん代行する。

AIドローン集団による自由視点映像技術が世界を制す。



AIドローンを搭載した無人潜水艦

AIドローンとそれを搭載した無人潜水艦の時代

尖閣諸島の地下基地の意義

防人として核保有国からの侵略には毅然として立ち向かう

ウクライナ戦争とイスラエル戦争から、専守防衛基地として必要な多くのことを学ぶことができた。 7/7

基地が居住区にあってはならない

核の脅しに屈しないよう、核ミサイルにビクともしない基地が必要

巻き添え犠牲者がやたら多い

ドローン全盛時代

核の脅しで、ひるんでしまうことのないようにする。

水中ドローン千台

水上ドローン二千台

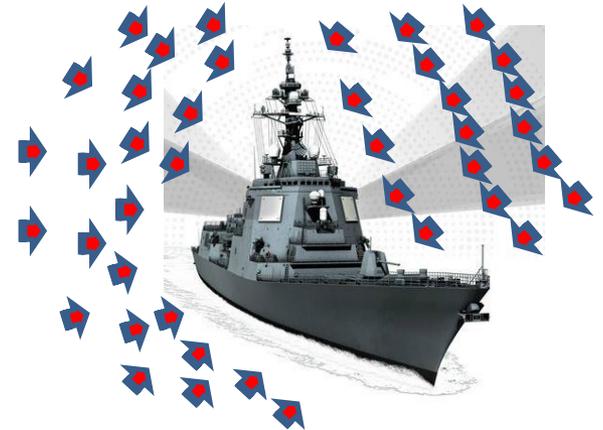
空中ドローン七千台

G7で共同開発を行う。



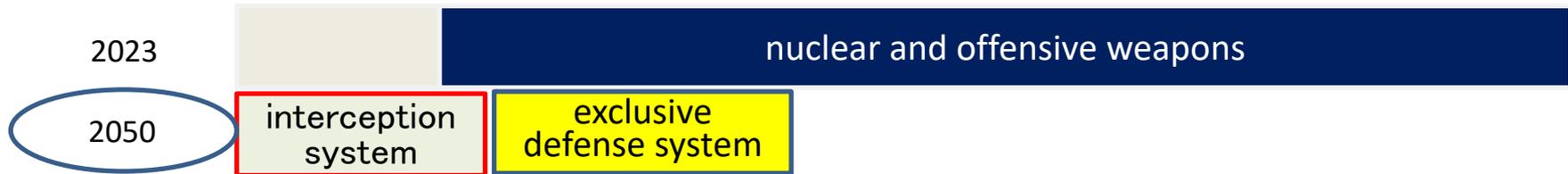
1万人の自衛隊員は、海産物農業で自給自足の生活をしながら、ドローン及びドローンの操作方法を習熟する。

特にAIによる自動運転モードとマニュアル遠隔操作の切り替えを随時行い、ドローン集団戦略について研究する。



日本は侵略戦争はしないと決めているので、ミサイル、戦闘機、戦車や装甲車、大砲等はもはや不要で、もっぱらAIドローンを使った、集団戦略を習熟する。

< Image of Weapon genre in 2050 >

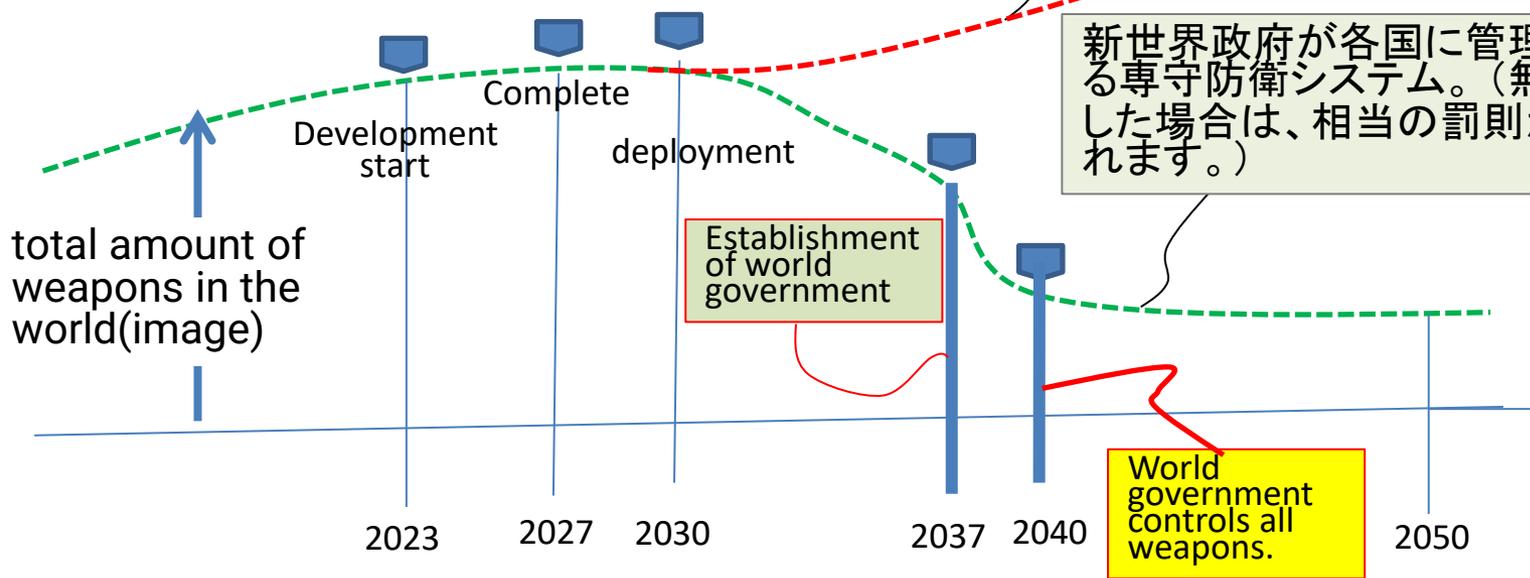


Current route =

「自動スナイパー付帯AIドローン専守防御システム」がない場合の武器の総量イメージ（増加の一途）

「静かに走行も可能で自動スナイパー付帯AIドローンの専守防御システム」をまず西側諸国に配備して、侵略戦争ができない環境にしたうえで、新しい世界秩序の世界政府を樹立し、委託管理は各国が行うが、全武器は世界政府が統括する。

新世界政府が各国に管理を委託する専守防御システム。（無断で使用した場合は、相当の罰則が科せられます。）



世界政府とは、国連の延長であるが、世界の武器を統括し、拒否権をなくすようにしたもの